



喜多尾憲助さん追悼文

片倉 純一

j.i.katakura@gmail.com

喜多尾さんが亡くなられたことを知ったのは今年の 12 月に入ってから奥様より喪中のお知らせがあった時で、4 月 21 日に亡くなられたという事でした。87 歳ということでした。本当に驚きました。

喜多尾さんとはここ何年かは ENSDF (Evaluated Nuclear Structure Data File : 評価済み核構造データファイル) グループ会合でお会いするほどであり、昨年度の会合では体調がすぐれないということで参加されなかったので一昨年の会合が最後になってしまいました。

ENSDF は原子核構造に関して測定されている実験データを評価し、最も信頼性のあるデータを提供する目的で国際協力で始められたものです。当初は ORNL (Oak Ridge National Laboratory) が中心になっていたように記憶していますが、その後、BNL (Brookhaven National Laboratory) が取りまとめをやり、IAEA (International Atomic Energy Agency) を通じた国際協力の枠組みが出来たように思います。この ENSDF は質量数ごとにまとめられており、Mass Chain Evaluation とも言われています。原子核は現在質量数 1 の水素から 299 までの原子核が測定されていますが、日本はこのうち質量数 118 から 129 までの質量数を担当していました。

喜多尾さんは日本が ENSDF の評価を始めた頃 (1970 年代) から関わってこられたのではないかと思います。始める時には ORNL の Martin が来日してレクチャーしてくれたというような話を喜多尾さんが話されていたように思います。喜多尾さんはこれまで A = 121 (1979)、122 (1986)、125 (1993)、118 (1995)、127 (1982, 1996)、124 (1997)、119 (1992, 2000)、128 (1983, 2001)、126 (2002)、120 (2002) と日本の担当範囲の殆どの原子核構造の評価を実

施してられました。亡くられる前までもかなり評価が遅れていた質量数 118 を担当しておりましたが、残念ながら完成には至りませんでした。

世界的にも ENSDF 評価の第一世代が退いていく中、なかなか新しい人材が入ってこない現状があります。その中でも長い間一線で評価に携わってこられた喜多尾さんは貴重な人材でした。評価者の代替わりで、評価方法等も変化してきており、混乱するようなこともあります。そのような時、以前の方法との違い等を議論できるのは得難い経験でした。

もうお会いできないことは残念でなりません。ご冥福をお祈りします。